差し迫る戦争への危機をのりこえるため、しっかりと歴史認識を共有しよう。

山田 久雄（下関支部 ）

最近気になっていることは、オリンピックの卓球選手が、知覧特攻記念平和会館についてネットで言及したことで、中国メディアから激しい非難をうけていることです。会見で「鹿児島の特攻資料館に行って、生きていることを、そして、自分が卓球をこうやって当たり前にできていることというのは当たり前じゃないというのを強く感じたい。」と話したこと。実際にこの会見を機に来訪した家族は、「その選手の会見を聞いて、家族の日常の幸せをかみしめるために訪問することにしました。」と発言しています。平和会館館長は、若い方に特攻資料館がどういうものか知って頂くきっかけになったと発言しました。ところが、中国で波紋が拡がっています。中国メディアは、特攻は軍国主義に侵略の歴史の美化だとして、この発言を「中国人の感情への冒涜」だと報道しました。この発言があったその翌日に中国卓球選手の二人はこの選手のフォローをはずしました。コメント欄には中国語で「侵略者を崇拝することは私たちの国民感情を傷つけ、受け入れられない。」「この悪名高い場所が軍国主義を呼び起こす場所であることを知っているのか。」など、この選手を非難する書き込みが相次ぎました。あわせて卓球の選手達が東郷神社に参拝したことも。この関連で批判の声が上がりました。東郷神社は日清戦争、日露戦争の士官が祭られており中国メディアが主張する「参拝してはならない日本の神社」の一つです。さて、なぜ毎回悪いほうに事態が発展していくのか、不思議でならず、今回気になり知覧特攻記念平 和会館を訪問しました。自分の命を惜しまずに敵の軍艦に突っ込む勇敢な姿。特攻の前夜、家族や友人、恋人に別れの手紙や電報・ハチマキや、特攻の制服などを見ると涙がこみあげてきます。天皇、軍部指 導者、政治家 、資本家などが戦争を起こした者達に強い怒りを感じました。二度と戦争はしてはいけないと思いました。

しかし、今回は疑問を持って、資料を冷静な目で見ることができました。太平洋戦争はなぜ起きたのか。どうして特攻という玉砕の形までに戦わなければならなったのか、この帝国主義の戦争はなぜ始まり、どのように終わったのか、この戦争以前の日本はどんな状態だったのかについて全く触れておらず、原爆が２度落とされ、沖縄上陸の中で、国民を守るためにポツダム宣言を仕方なく受諾したという１枚の昭和天皇の詔だけが掲げられていました。訪問者は、純粋に追悼の気持ちを持つと思います。ところが、中国メディアは侵略戦争が曖昧化したまま没した兵隊たちに哀悼を祈るのを、戦争を美化し、はぐらかして戦争責任をとらない日本政府に抗議しているのだと感じた次第です。戦争を起こす者と戦争に従属させられる者とをはっきりさないまま、歴史教育が行なわれているのが最大の問題だと考えました。そして、訪問したいとの発言後、人民解放軍新聞メディアセンターはアカウントに、「 周知のとおり、“神風特攻隊”は日本の軍国主義が生み出した狂気そのものである。そんな場所でいったいどんな歴史を学べるというのか。“平和”と“特攻隊”を一緒にするなどと、とんだ笑い話である。日本の右翼勢力が歴史の改ざんや侵略戦争の美化を続けていることが、十分に見てとれます。日本の著名人がそんな話題を語ったことは、驚愕に値する。」と

載せています。また、上海新聞広播は、かつて平和会館のある鹿児島県南九州市が特攻隊を世界遺産委しようとしたことを引き合いに出し、こう解説した。「日本は長年。“神風特攻隊”を“悲劇の英雄”に位置付けようとした。２０１４年に世界遺産の登録申請を行ったが、中国や韓国から一斉に非難され失敗に終わった。」「やっぱり日本人は歴史を正しく見ることはできない。日本人はどうしたって日本人。最初は、尊敬に値するライバルと思っていたのだが」と。やはり、中国のマスコミなどは、日本人全体が、侵略戦争を否定し東郷神社、乃木神社 を参ることは、侵略戦争で功績を収めた人を賛美することで、また、知覧の特攻記念平和会館を訪問することは、日本の中国へ侵略に反対したアメリカに自分の命を投げ出してまで戦った人たちを英雄化して、侵略戦争を賛美していると捉えていると思います。

そのギャップは、どこから来るのでしょうか。やはり、日本の為政者が、日中戦争は侵略戦争ではないと思っての結果であると思います。現に、東郷神社のサイトでは、「東郷神社は東郷平八郎命をお祭りする神社です。「至誠」「勝利」「強運」「縁結び」の神様として多様な世代から崇敬を集めています。東郷 平八郎命の「至誠（まごころ）は神に通じる」とその一生を貫かれた御徳を後世に顕彰するため、神社におまつりしてほしいと国民からの要望と浄財によって創建された神社です」と説明しています。東郷平八郎が日清戦争では艦長として活躍、日露戦争では連合艦隊司令長官としてロシアのバルチック艦隊を撃破して英雄扱いをされています。

けれども、日清戦争は朝鮮の権益をめぐって日本と中国の間、また、日ロ戦争は、中国の遼東半島をめぐっての日本とロシアの帝国主義国同士の戦争であったとの説明はありません。ひいき目に見て、卓球選手として勝利祈願のために東郷神社を訪れただけとしても、その行為は侵略戦争の立役者を神社の御祭神として祭り上げていると思われています。

また、今話題の育鵬社の歴史教科書では、イギリス、フランス、アメリカ、ドイツ、イタリア、オース トラリア・ハンガリーは、軍事力や経済力で他の国々を圧迫して、植民地化する動きを帝国主義というと説明しています。朝鮮、中国の権益を奪い、資源を強奪し、日本語を強要したり、名前を日本名に替えさせたり、総督府や、満州国をつくって、日本が帝国主義国になったのは間違ないことなのに、それには触れていません。

以上から、日本が朝鮮、中国を侵略した事実を、日本の支配階級は、謝罪をせずに、意図的に東郷神社、特攻記念平和会館を利用して、戦争を美化して、侵略戦争を肯定する意図があると思われても仕方のないことと思いました。それが証拠となるように、閣僚７８人の国会議員が靖国神社へ参拝しています。靖国神社は、1978 年、東京裁判でＡ級戦犯とされ処刑東条英機首相ら１４人を合祀しています。同神社の崇敬者総代会で「Ａ級戦犯だけ合祀しないのは東京裁判を認めたことになる」との意見もあり、合祀が決まったと当時の宮司の意見があります。しかも、驚いたのは、原子爆弾や空襲や、満州などで死んだ民間犠牲者は祭られてないのです。同裁判を否定することは、国際社会の公約に反することです。韓国外務省は。「深い失望と遺憾の意を示す」と。中国メディアは、「一部の政治家は反省せず」と。私は国際平和運動センターを各国につくり、労働者が中心となる世界を目指します。

日退教組織活動交流集会　四国ブロック
「私が軍国少女を生きた時代」出版に向けての取り組み報告

徳島県退女教　杉原恵子

はじめに

私たちは、2017年7月から2018年6月末の約1年間かけて、当時80歳代の戦争を生き抜いた女性10人のインタビューを続けて来ました。彼女らは、少女時代に戦争に明け暮れる日々に軍国主義教育をたたき込まれ、日本は必ず勝つと信じていました。戦争体験のない私たちにとって、当時の少女たちの日常はどのようなありようだったのか、どんなことを考え感じながら生きていたのか、そのことを知ること、そして今を生きる人たちに伝えることの必要性に迫られ、取り組みを進めることになりました。

さらに2017年4月には安倍政権下で教育勅語の教材化が閣議決定されたことに、あり得ないことが起こっているという強い危機感をもちました。教育勅語は、1948年に、日本国憲法や教育基本法に反するとして、軍人勅諭とともに衆議院で排除に関する決議、参議院で失効確認に関する決議が行われています。今回の閣議決定は、再び子どもたちを戦場に向かわせようとすることにほかなりません。強い憤りが、この取り組みの原動力となりました。

戦争体験者の証言記録を残す！

1年かけての聴き取りは、会員2人が対象者1人にインタビューをする形で進め、ボイスレコーダーでの録音もしました。戦争を体験していないインタビュアーにとっては、それぞれの人生に対する驚きと新たな視点を示唆してもらう学びの場となりました。そして10人の対象者それぞれが、高齢ながらも当時の出来事を正確に記憶していることに驚くと同時に、取材中には少女の面影が蘇ってチャーミングな語りに何度も魅了されました。そんな姿を写真に収めました。

取材後には、延々と続く文字興しの作業と編集作業に約2年間かかりました。「私が軍国少女を生きた時代（とき）」の出版は、2020年4月20日、ちょうど戦後75年となる年でした。

本の中には、十人十色の少女の息づかいが感じられます。10人の名前は少女時代の名前を記載し、一人ひとりの人生を象徴する見出しをつけました。「男たちは次々と戦地へ消え、白い箱となって帰って来た」とした岩佐昭子さん(93歳)は、現在骨折のリハビリ中です。「唱歌を口ずさむ日々が幼子を軍国少女に変えていった」とした渡部晴美さん（90歳）は病気闘病中です。「長女の私は第二の母だった」とした松田貴子さん（93歳）は今もグランドゴルフなど地域の活動に生きがいを感じ、人生を取り戻しています。「少女は動乱の満州の大地をたくましく駆けぬけた」とした和田佳子さんは満州からの引き揚げを少女目線で語って下さいましたが、亡くなられています。「初恋の人を連れ去った戦争、二度と帰らぬ日々を詠む」とした瀬川秀子さん（97歳）は介護施設に夫婦で仲良く入所されています。「子を守る父母の思いとは裏腹に軍国少女を生きた日々」とした谷本正江さん（93歳）は先日事故で亡くなられました。「人間の営みを焼き尽くした徳島大空襲だったが人間の意志までは奪えなかった」とした野口

保子さん(93 歳)は夫の介護をしながらも趣味の合唱や俳句を楽しんでいます。「玉音放送を聞き『叔父は犬死じゃないか！』と悔し涙を流したが･･･」とした藤江久子さん（93 歳）は文芸活動を続けています。「敗戦はダンディな父を哀れな老人の姿に変えてしまった」とした竹内菊世さんも文芸家として活躍されています。「平和への思いを琵琶に託して―『平家物語』から『平和の調べ』へ」とした郡徳子さん(89 歳)は琵琶の演奏家として平和の語り部となっています。10 人の証言者の中には残念ながら亡くなられた方もおられ、記録することの大切さを改めて実感しています。

出版を契機に、地元地方紙の徳島新聞や毎日新聞、ヤフーのインターネット配信などマスコミ各社が取り上げてくれるようになりました。さらに証言者が各学校の平和学習講師に招かれ、子どもたちに平和であることがいかに大切なことなのかを自らの体験を交えて伝えることも出来ています。皆さん、生き生きと活動されています。2024 年にも市内小学校での平和学習に参加しました。

さらに現職組合の協力によって 2021 年 10 月には徳島大空襲に被災した証言者の現地フィールドワークを実施しました。そして、証言者 3 人のＤＶＤを制作し、文字だけでなく映像化することも出来ました。本とＤＶＤは現職組合員に配布し、平和学習に役立ててもらうことが出来ています。

おわりに

戦争を経験していない戦後世代にとって、この日常がどこに向かっていこうとしているのか知るよしもありません。戦争を経験している戦前世代にとっても、日々の暮らしがまさか戦争へとつながっていたとは夢にも思わなかったでしょう。しかし、戦争は人々の生活を、人生を狂わせてしまいました。ここに記した10人の女性は、小中学校の頃、教育勅語の精神をたたき込まれ、好むと好まざるとにかかわらず軍国少女として成長していきました。彼女らの語る日常は同じ色に染められているように見えるけれども、時に鮮やかな色を発しています。

それは、幼稚園の先生が「日本で一番偉い人は誰ですか？」と問うと「うちのお父ちゃん！」と胸張って答える幼子の横顔に。そして、「先生は日本が勝つと言っているけど、こんなちっぽけな日本が勝つはずがない」とつぶやく女学生の姿に。ある時には、小学校の教師が「あなたは教育勅語のどこが守れますか？」と聞くと「夫婦相和し････」と答えた子どもに、「あなたは夫婦でないでしょ」と返す教師の笑顔に。さらに、校長先生が教育勅語を読み上げるのをじっと聞いている子どもが、「チン」は「犬のことか？」とつぶやく姿に。また「チンハオモワズヘヲヒッタ････ナンジシンミンクサカロウ、ハナヲツマンデギョメイギョジ」と茶化して口ずさむ子どもたちにいたっては、教育勅語を抵抗歌にするしたたかさを見た思いがします。

教科書が軍国教育を浸透させたことにも注目しなければなりません。小学1年生の教科書は、「サイタ　サイタ　サクラガサイタ」で始まります。桜は日本国の象徴でした。それが「ススメ　ススメ　ヘイタイススメ」となり「アカイ　アカイ　アサヒ　アサヒ」「ヒノマルノハタ　バンザイ　バンザイ」となっていきます。そして「アオイソラニ　ギンノツバサ　ヒカウキ　ハヤイナ」として戦闘

機の絵が教科書に載ります。少しずつ、日本へ、日の丸へ、戦闘機へと導かれていくのです。敗戦後、教室で子どもたちは何の説明をされることなく、教科書に墨を塗り続けることになりました。戦闘行為は、突発的に引き起こされますが、人々を戦争に向かわせるのは、教育によって知らぬ間に人々の精神に入り込みます。そのことを教育者とされる人たちは肝に銘じておかなければなりません。

＜寄せられた感想・意見＞

＊本を読んで、とても感動しました。買ってよかったです。振込用紙には書ききれないので、電話しました。戦争体験は、この本を読んで充分よくわかりました。みなさんが各々文章の最後に書いた「若者たちに伝えたいこと、たくしたいこと」をもっと生かさないといけないと思います。吉永小百合さんに送りたい。（鳴門市女性）

＊素晴らしい本ありがとうございました。母が（92歳）楽しみにしております。（板野町女性）

＊早速に送付いただきありがとうございました。有意義で今でなくてはでき得ないお仕事です。（徳島市女性）

＊私は昭和11年生まれです。昭和22年2月に満州から着の身着のままで引き揚げてきました。先輩の先生方の貴重なご体験は私自身、共感させていただくところ大で、そのご様子が目に浮かんできます。戦争は絶対にダメです。でもコロナには絶対負けないようにしたいです。ありがとうございました。（徳島市女性）

＊戦前、戦中、戦後を生きた85歳の女性のひとりとして、かみしめながら一ページずつ読ませていただきます。ありがとうございました。（徳島市女性）

＊絶対に戦争への道へ歩まない国を！と10人の大先輩の思いのこもった本をじっくり再読させていただき、身近な友達にも読んでもらおうと思っています。（阿南市女性）

＊本をお送りいただきありがとうございました。早速、同郷の妻と二人で拝読させていただきました。私はかろうじて戦後世代といえる昭和29年（1954）に生まれました。私の父は昭和4年、母は5年生まれですので、ちょうど証言者の皆様と同世代になります。これまでに原爆や沖縄戦に被害者の手記や各地の空爆の記録、特攻兵士の記録などは見聞してきましたが、同郷の身近に感じられる方々の証言は初めてであり、随所に出てくる昔の地名も懐かしく読み終えました。･･･今の若い人たちに伝わる言葉で、戦争の実相を語り伝えていかなければならないと改めて決意させられた一冊でした。貴重な資料を残していただいたことに感謝申し上げます。（東京都男性）

＊ご本、早速母と交代で拝読させていただきました。･･･子どもたちが、今からすれば理不尽な生活を強いられている様子が目に浮かぶようです。･･･夜分だったのですが、読み終えるまで寝床に入る気になれませんでした。母も私も一気にのめり込んで読みました。皆様のご尽力でこのようにすばらしい図書をつくりあげられたこと、ご尊敬申し上げます。（Ｇさんより）

第44回退職女性教職員の会　中・四国ブロック学習会　アピールより

満州事変が起こった1931年に、私は生まれました。
そして、私は10歳に。太平洋戦争が始まりました。
小学校が国民学校に変わりました。
大好きな兄ちゃんは、軍服を着て戦地に行ったきり帰ってきませんでした。
そして、私は14歳に。1945年、戦争が終わりました。

同じアジア人を蔑み、男は女を虐げ、障がい者を排除し、
弱き者たちへ憎悪のつぶてを投げつける。
差別と憎悪と排除がとぐろを巻いていた日本でした。

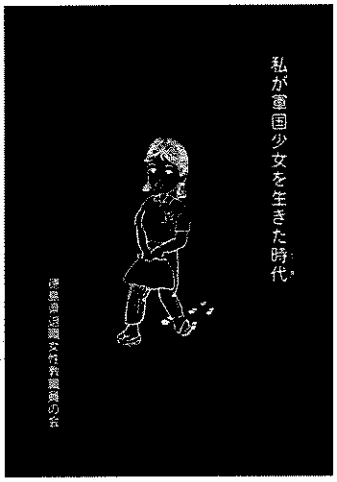
新しい憲法が出来ました。「戦争放棄」の文字に胸が震えました。
今、私は90歳になります。満州事変から90年がたちます。

今、私に出来ること、それは、同じ過ちを繰り返さないこと。
その対極にある平和と平等と信頼、共生を実現していくことです。

ＳＤＧｓの理念「誰一人取り残さない」。
これを知った時、どっこい、もう少し生きてやろう!!と思っています。
共生の社会が実現するのを、この目で確かめるまで。

２０２１年１１月１日

＜頒価　500円＞



＜一枚300円＞

第２分科会「平和・教育・人権・民主主義・環境・等」

ＮＰＯ法人　学習支援「悠遊」都城教室のものがたり

宮崎高退教協（南部支部）　　黒木　正弘

１、事のはじまり（その１）

活動を始めた2010年（平22）の数年前に、「県教研」で通信制の分会から「休眠生」に関する問題提起がある。県内の通信制の生徒3000余名のうち、履修登録を行わない「休眠生」が1800名以上いる。半数を超える生徒たちをこのままにしておいていいのか、何らかの手立てが取れないかというのであった。その後は、高教組委員長から高退教協の協力を相談され、南部支部が支部長の呼びかけでその気になる。２月末に、高教組委員長、通信制職員（３名）、不登校生支援関係者（２名）、高退教協の南部支部（５名）等で話し合いを持つ。部屋を借り２名ぐらいが常駐して彼らのさまざまな相談に応じる形にする、と具体化し始める。

県議会でも取り上げられ、県教委の動きを触発することになる。その県教委は４月から取り組もうと、予算を組み、元校長たちに声をかけ講師集めを始める。だが、どういうことなのか、応じる人物は見当たらなかったのだ。

４月下旬には、その県教委と高教組、南部支部の３者で本格的に詰めていく。そこでは県教委から、休眠生の支援をしてほしい、100万円の予算も準備したという提起がある。５月の連休明けに、通信制の高校も含めた４者で実現に向けて具体策を練り上げていった。こうした中で南部支部の七名が、学習支援教室を立ち上げたのだ。ひとこと添えれば、ほとんどが60代後半の好々爺であり、いまだに見て見ぬふりができない熱血漢でもあった。

月曜から金曜までの９時から16時（午前が９～12、午後が13～16、土日祝は休み）、５月17日（月）より開講する。場所は都城市の館ガエールプラザ（旧職業訓練校）とし、名称は「ラナグリケーション」（「学ぶ」・「農業」・「教育」の英語からの造語）で、県教委主催と決まる。ただし、あくまで８月31日までの調査のための期間限定のものだった。

（名称に農業が入ったのには、希望があれば農業体験等もやりたいとある有志の胸奥に胚胎していたと思われる節があった。現に、教室開設の一週間後には教室南側の荒蕪地に耕耘機を入れ大石小石に苦戦の末、およそ十坪ほどの畑をつくっているのだ。これが正しく最初の手応えであったはず。ちなみに、現在

は農場長と作業員の2名の自発的な尽力により、季節の野菜が栽培され、手伝いもしないのに我々はもちろん、やって来た生徒も含めて、しばしば新鮮な農作物のおみやげをもらっている。おかげで花も実もある生活でもある。)

さて老いてもなお意気軒昂な七名は、前日の16日の日曜にはスクーリング会場校まで赴き、通信制の職員と面談し、特活の時間の一部をいただき70人ほどの生徒を前に支援教室の案内をする。みなさんのレポート作成をボランティアとしてお手伝いをする教室です。都合のつく曜日と時間に遠慮なくおいでください、などと熱弁をふるう。その時の手元のチラシには、中学生・高校生で学校に行けてない方もどうぞ。最後に無料とあった。

なお、学校とは次の確認を取り交わす。利用状況等を定期的に教頭に報告する。生徒に直接呼びかけず、全て学校を通して行う。こちらからは要望等はしない、ことを約する。

残念ながら、6名で心待ちした、翌日17日の開設初日は待ち人来らず。それでも地元新聞の取材を受ける。20日の「教育の広場」のコーナーで、「“休眠生”再び教室へ」の大見出しに「通信制高校生意欲向上狙う」・「学習支援や悩み相談・元高校教師ら」の見出しだった。その記事で室長は次のように語っている。

「一人も来ないのは覚悟している。ともかく、雑談をしながら学校と生徒とのつなぎ役になりたい。学習面はもちろん、精神的な部分でも解きほぐすことができればと思う。休眠生に限らず、活動生も歓迎します。」と意欲満々。(と好意的なものであった。)

現在もこの発言に沿った活動をしている。訪れた生徒に簡単な面談はするが深入りせず、あとは付き合いが回数を重ねる中で本人が話すのを待つを基本的姿勢にしている。くれぐれもこちらが当人の前に出ることなく、どこまでも寄り添うという形を心がけている。

10日が経過しても一件の連絡はあったが、来室者はいない。28日(金)の午後に、一人の通信制がやって来た。英語と数学のレポートを持って来る。その日は数学だけをつき合う。彼は次週には英語も習いに来ている。どうにか学習支援の濫觴を記し得たわけである。

流れができて、6月には活動生が多くなり22回(数名)、7月に入ると学校に行けていない中学生も8回(1名)やってきて、設定されていた8月までの延べ利用者数は76(通信生47、中学生29)であった。やはり県教委は取り決め通り

8月31日で手を引きました。が、我々は生徒を目の前にしている支援教室はいやでも終われません。

2、事のはじまり（その2）

自分たちで教室の使用料等を出し合って支援教室を続けることに決める。（2011年1月分の請求書には使用料が4150円とある。）新たな初日の9月1日の記録に、室長が意気込みを記す。「今日から私たちの取り組みです。愉しみましょう。施設の利用許可申請書を、私の名前で提出しました。」と。県教委の箍がはずれ、自分たちが善しとすることをのびのびとやっていくとの宣言である。

このことを知った高教組が動いて、資金面や先々の活動の在り方等を考え、ＮＰＯ法人を立ち上げようとなる。また、労金の「シニア活動支援」のお世話にもなる。ひとえに本部の後押しや尽力により、あれこれの準備をなしえて、ついに、翌年の2011年2月15日に、名付けて「ＮＰＯ法人　学習支援　悠遊都城教室」と看板の装いも新たにして、これまで通りの活動にただ邁進するのだった。（「悠遊」の裏には「悠悠」を見ていただければよいかと思われる。）

するとそのあと県教委から、同年4月からは予算のついた県教委の事業になるが、活動主体として今の形で取り組んでくれとの要請がある。

翌年の2012年の4月からは、担当時間を午前も午後も2時間の4時間に減らす。この方が3時間ずつの6時間の務めより、体力的にも気持ちの上でも継続しやすいとなる。それに加え、利用者の年間総計数も262から126となり、生徒の来ない日が増え暇を持て余すようになっていたという事情もあった。

3、十周年を迎える

5年後の2015年5月16日の日付で、黎明期の区切りとして五周年を祝い、30数ページに及ぶ記念誌も作成する。編集後記の出だし。「彼岸近くを生きる不逞の輩が、覚束ない歩みを続けて5年。伏し目がちであった子が、ジジイの冗談に手厳しく返してくるようになってきた。その変化が私たちジジイに活力をくれました。」と。作用反作用みたいに、酸いも甘いも噛み分ける老体が若い者の瑞々しさに触れ気持ちの上で若返りか。物言いの腰は低いのだが、細々としかしできるだけ長くやっていきますよとの意気込みが息づいていよう。

それからまた5年。2020年の10周年も冊子を作りお祝いの会も催す。その10年誌（5月）では、10年をひと区切りとして2021年の4月からは新体制でと謳っている。その前の4月に県教委は、予算の逼迫により利用実績に応じてと、

月・水・金の週3日を提案してくる。週5日を続けると11月で予算が尽きるとのこと。利用実績の言葉に違和感を抱くこともあり、では10月からは火・木の分を教室の積立金で賄おうと月1回の定例会で決議した。およそ月に八千円前後の使用料となる。

かくて、2011年の3月の会議で我々の年齢・健康状態等を考慮して、週3回（月・水・土）、活動への自由選択とし、新室長の下、新生とは言い難いほぼ同じメンバー10名で始動する。土曜にしたのは、生徒の要望に応えてのこと。

4、この教室の展望やいかに

そのかぎは必然的に利用者の手にゆだねられていよう。利用者は2021年が77、2022年は81ともう以前の3桁の数とならない。だが数字は二の次である。それより、生徒の抱える、看過できない問題に気持ちは立ち向かって行こうとする。

3年ほど前に、娘2人（当時、小6と3歳）を親の援助はきたいできずに一人で育てる、高校2年中退の40代の母親が子ども支援センターの人に連れられて来た。資格が取れると喧伝する会社に、10万からのお金を投じて高卒の資格を得ようと考えていた。だが、一人ではできそうにないと思い相談してのことであった。

教室では彼女の学力や家計の実態から考えて、県立の通信制高校科目を勧めることにした。申し込んでいた方は、こちらで手伝って一回レポートを出し、7万からの費用が残ったが契約を解消した。それについては、教室の貯蓄からある時払いの催促なしで、ともかく肩代わりした。

翌年に入学でき、10を超える通信のレポートと取り組むことになった。公的補助とアルバイトで毎月をやりくりする彼女には、子どもを寝かしつけてレポートを作成するゆとりは見つけにくかった。そこで教室では、全員に科目を割り当て、手取り足取りせんばかりの手伝いを続けた。どうにか昨年の9月になんとか卒業できた。仕事は小学校の臨時の事務職にたまたま就くことができてて今も継続中である。今でもときどき顔を見せ、これからのことなどを話し合っている。

今度は中学生の話になる。昨年9月ごろ、線路向こうの中学校の1年学年主任がやってこられる。教室に入れない生徒にここを紹介したいとの相談だった。100名を超える生徒数の中で10名いるとのことだった。案内文と月担当表をお渡しする。数日して母親連れで中1の女生徒が来る。はきはき答える。学力も

あるようだ。またお出でなさいで別れる。だが淡い期待はむなしくそれっきりである。ついつい押しつけがましい口調になっていたのかもと自省する。

現在、同じ中学の2年生が昨年の12月からやってきている。小学校4年から通っていないとのこと。だがここには、週に一、二回、ほぼ毎週顔を出している。母親が基本的には送ってくるのだが、ひとり歩いてのこともある。こうして今は、彼女ひとりを相手にして教室が動いている。

彼女は教科書を持ってくる。日によって国語と数学になりあるいは英語ともなる。午前十時過ぎに姿を見せ、母親がもたせた弁当を食べ、終わりの午後三時までいる。母親の迎えが来る。

ただ、なかなか教科には気が向かない。黙って漫画などの少女像を描いている。三十分なり経つと、こちらから声をかけて教科書となるにはなる。ところが、ここを読んでみてと促しても黙読で済ましてしまう。他のことでも会話が成り立ちにくい。挨拶ひとつもできていない、そこからだとか、こちらの不満がたまってしまう、重苦しい月日が流れる。それでも彼女はやってくるのだ。母親がそう仕向けているとも思われるが、それだけでもないとも感じられる。

それが先月、前向きな兆候が萌していると思っていい場面が生じた。描いている絵を手がかりにぽつりぽつりと言葉のやりとりが始まる。担当者の温厚な性格の然らしめるところと思われた。彼女も口を利かないつもりではない、いやむしろ、お話したいのかと希望を持つ。だが、誰もがそうできそうにないのが悔しいことである。とはいえ、待てば海路の日和ありを知識に持つ者としては、愚痴より実践とならねば道理に反すると覚悟する。

こちらは現在80代が6名の10名。仲間は増えない。先がおもいやられる。がしかし全員の気持ちはしぼまない。毎年、志を新たにしたかと顔を見合わせ、14年が過ぎ15年めをたどっている。

いささか気にしているのは、4月に通信のスクーリングで説明すると数名が来たが、そのあとは途絶えていること。これはどういうことなのか。アルバイトの休みの日にわざわざ出向くのが面倒なのか。一人では思われる、数学でも英語でもなんとか自力でやっているのか。彼らなりの、なんらかのやり方を身に付けたのか。さて、役目が終わりに近いのか。今の一人の中学生が卒業を迎える頃に何かが決まるのか。県教委が今に予算を配分できなくなったと通知してくるのか。どうなるのであれ、我々は月一回の夜も含めた定例会で方向を確かめ合っている。

「 ダメ！川内原発２０年延長 ！ $\frac{1}{50}$ は 知っていたけど… 」

鹿児島県高退教 指宿支部 橋野裕明

1 はじめに

最初、「 川内原発20年延長を問う県民投票への道 」というタイトルで、時系列に沿ってレポートつくろうと思っていました。九州ブロックの事務局にレポートの概要を報告していたので。 署名の期間が過ぎた頃、「今度はレポート書きやな」と仲間から言われた。それを聞いて、あーこの人は今の段階で署名運動が終わったと捉えているのだなと思った。だから、署名簿つくりがどんなに大変だったかも解っていないかもしれないと思った。これまで、私たちが経験的に取り組んで来た署名集めと変わらない運動だとしか理解していないのだと私は受け取った。それは、上から降りて来る、例のA4のペーパー1枚に、趣旨が書かれ、5人か10人の名前と住所を書く欄がある、あの用紙と同じように受け取っているかのように思えた。違うのだ。私たちの今回の取り組みは下に記すように、 A3 を2つ折りにし、中に A4 を 5枚差し込み、ホッチキスで綴じた1冊に10筆からなる署名簿だ。多くの市民の手により出来上がり、県都鹿児島市と地方との連携、その他、いろんなことを取り組みがあったのだ。限られた期間で、いろいろな制限の中で。結果は自公の数の力で県議会は採択しなかった。

九州ブロックの夜の交流の時、他県の方から、「署名簿つくり、大変だったのですね」と言われ、嬉しかった。私たちが普通に取り組む「署名集め」と比較した時、草の根運動に欠けるもの、学ぶもの、私たちの運動が培ってきたモノ、財産、組織のありがたさを皆で問いなおしてみたいと思った。それを、以下に報告します。

※ たとえば ⇒ 日教組―各県教(高)組 ― 支部 ― 分会 … 各部所に執行委員、書記、会計

2 具体的な取り組み 署名簿つくり、署名集めの経過、そして臨時県議会、運動体の動きの記録。

① 署名簿の中身作り(体裁)。 → 前例 と 関係書を参考にして

② 印刷、綴じ方(5月30日に県知事の公印を受けてからでないと印刷、綴じ方は出来ない)

- A3 を2つ折りに A4 を 5枚差し込み → ホッチキス … 1冊に10筆。(20筆にしようとの意見も)
- A4 の紙にすると(ペーパー)で10万5000枚分。公民館を借りて、手弁当で 3、4日間 ？

③ 署名簿の配布 県の事務局→ 地方へ…だれに(はじめの頃、正確な配布網は確立してなかった)

・収集者の ネットでの 収集者(署名を集める人)の募集 ・地方の 責任者へ … 手配り、郵送

・収集者の応募 (一方で、署名を、もらいながら収集者になってもらう)

④ 回収 地方で回収、個人としても送付、まとめて県事務局に届ける。

⑤ 鹿児島市の事務局に集め、一括して点検、カウント。十分に $\frac{1}{50}$ を クリヤー …… 5万290筆。

この作業が大変、段ボール箱の山、1日 1万筆を目安に、会場を変え、4～5日かかった。

⑥ 内容の点検、署名数の済んだものを私たちの県事務局から地方の担当者に。

地方の担当者は → 市町村の選挙管理委員へ. 例えば 指宿 1,416筆

⑦ 地方の選管はこれをチェック → 縦覧 → 指宿(1,351)筆 → 県事務局

⑧ 1週間の縦覧 なぜ縦覧 ？ → 不正を無くすため。

⑨ 地方選管で縦覧後 → 地方で受け取り→ 県の事務局へ

◎大票田の鹿児島市のチェックが遅れる。 タイミング、県議会 での審議 臨時議会を開催

⑩ 県の選管へ 本請求 10月 4日 (46,112)筆

・県選管に渡す前の集会→県庁7階に約5万筆を、5台の台車に乗せて100人が手渡し会場に。

・知事は国体出席と称して会わず、係りに手渡す

⑪ 臨時議会開催のキャンペーン 8/14 街宣…車、10台が 鹿児島市内を駆ける。

⑫ 県庁前の座り込み 有志 2日間、県庁前 ← 県側のいやがらせ (地方自治法74条参照)

⑬ 臨時県議会 10月23日 ～ 26日 … こちら側の意見陳述に対し、自公の反論なし

⑭ 県議会前(ぜん)の集会 → 議会傍聴行動 … 早朝、8時半の受付を済ませ、集会、傍聴

⑮ 総括集会 … ・事務局長の総括「やるべきことはやった。これは国策に対する民主主義のたたかい」

⑯ ♪ ボブ・ディラン ♪ 「 風に吹かれて 」 …… 答えは 風の中にある ……

⑰ その他 ・集会、記者会見を、テレビ、新聞などマスコミに連絡して県民にアピール。 カンパ

・いろいろなグループ、・仲間の動き、・議員,個人の家訪問 ・地元議員への公開質問状…

・3. 11集会 毎年 今年は 3月10 中央駅集会、デモ行進。

・裁判傍聴闘争 … 今年の11月に 結審か。38回？

・労働運動、組合の動き、党、市民運動とのちがい、そうしたものが見えたように思う

→ 連絡網、 任務分担、 組織による関わりの濃淡

・私の立脚点 →指宿の「さよなら原発アクションいぶすき」、いぶすき九条の会

「　九州電力.川内原発20年延長を問う県民投票への道　」の流れ

1	20110311	はじまり・・・　福島原発事故発生
2	20120311	鹿児島市で、3. 11県民集会始まる。県内各地の反原発団体が一堂に。
3		コロナの時、2年ばかり中止　…そして現在へ。 高齢化もあってか、集約もあってか、参加団体数が減少
4	20120000	県知事選に　向原祥隆を立ててたたかう　→　惜敗　→　指宿は、このたたかいが　→　現在につながる。
5	20210000	「　川内原発の20年延長を考える会」　発足　→　県民の原発への批判の土壌形成を目ざしす。
6		・県の「原発検討委員会」のメンバー　…　はじめ、原発推進派ばかり.。→批判的なメンバーを推薦、要望
7		→　県は後藤政志さんを追加。　　県、専門委員会の傍聴行動
8	20220925	「　川内原発の20年延長を考える会 」、せまりくる20年延長を阻止する行動へのスタート。
9		彼我の攻防を時間のシュミレーション　　→　九電、知事、県議の動き、選挙の日程など
10	20231012	九電は想定より半年早く、規制委員会へ申請　　→　攻防が始まった。
11		こちらも行動　→　九電へ抗議行動　。地方へ。　　、　→　加世田の九電支所へも抗議
12	20221100	県民投票を求める運動をするか、どうか　→　結果として、やる方向
13		・やろう、こちらは、失うものはない　……　積極的　→　地域、職場に反映
14		・失敗への懸念、有効？　……消極的　→　地域、職場に反映。
15		→一定の署名収集人の確認　→　一定の収集人の募集状況できめる。結論は　年越し
16	20230112	県民投票を求める方向で動き出す。…地方自治法の学習・特に条例制定
17	20230226	幹事会　今後に向けての骨子案　・・・　この時、不賛同者、退出者あり。残った20人ばかりが最後まで牽引。
18	20230429	「川内原発20年延長を問う県民投票の会」発足当初…参加(　150　？　)人。→　草の根活動スタート。
19		署名簿のこと　①形式(何枚になるか)　②印刷製本作業、③収集人へ手渡し、入手
20		④記入の仕方　…　説明会の設定、出向き。⑤署名の要領の出し合い。⑥対人関係の復活
21		・署名の仕方　　署名を集めながら、収集人を募る…　ベストは →　樹木分岐図式のように広げる。
22		住所、生年月日、基本的に、自分の居住地域の有権者(選挙区にほぼ同じ)。家族も自筆で。
23		・署名収集人の募集　→　はじめは　収集人に集まってもらい説明。　後では署名簿の届け方。
24		・街頭署名(駅、繁華街)・・・県全体の雰囲気づくり、マスコミ向け　→　テレビ、新聞に
25		・公務員は出来ないということ。→　地方自治法の74条。→　混乱回避のため条例通りに受け入れ。
26		※Webで申し込みに公務員、始まってから亡くなった方、不都合がでた方　←　収集人から除外
27	20230530	～31 ★県より署名簿に必用な知事公印の押された「請求代表者一蘭」が届く。→それを印刷。1万5000冊
28		☆署名簿つくり。　　A3の2つ折りにA4を5枚挟み、ホッチキス。枚数は A4で 10万5000 枚　！
29		・6/10も 5000部の追加作成。市内事務局近くのの公民館を借りて、20人ばかり。手弁当
30		・7/8 若者向けミニコンサート(中央駅前) 若い人の注意を喚起。
31		・署名簿の配布作業(直接配布、業者)…必然的に、早くても6月1日以降。各地区担当者、署名収集人へ。
32	20230601	～7月30日　署名収集人による、署名開始　6月は梅雨、7月は熱射。みなさん、おつかれさま。
33		・6/1日は天文館で署名スタートセレモニーで始まった。指宿の分、120冊を持ちかえり、分担、配布
34	20230731	～選管に渡す前のこちら側の署名筆数のカウント作業。県内　21ヶ所分を鹿児島市で一括担当。
35		※「署名簿カウント大会]と銘打っての作業 →　早い段階で必要の2倍の5万筆を達成のメド。
36		県内21ヶ所の選管に、こちら側の担当者が手渡し。各選管による確認作業。重複、誤記、地区外、年齢確認。
37		県内各地区(21地区)への振り分け作業とカウント作業→ これを、鹿児島市の事務局と有志が手弁当で担う。
38		指宿…1,416筆　⇒チェック後 1,351筆に。177冊 → 8月7日。選管へ。縦覧。9月5日返付。
39		県全体で、はじめ　50.290　筆　⇒　46.112筆に　←　こちら側のチェック→　20　筆増
40	20231004	・県選管に、本請求　46112筆　…　請求前集会、台車に積んで県庁7階へ　知事国体で不在。
41		・県議会最終日でもある。　→　よって、川内原発の県民投票を求める条例審議は臨時議会へ
42		→イヤおうにも　県民の注目を浴びる。46.112筆の中に奄美の分が天候不良で不受理。　←　改善点
43	20231014	★「川内原発の20年延長を問う臨時県議会」開催を告げる街宣行動→　車、10台、鹿児島市内を走る。
44		★「 Kokeoddo 座り込み隊」 (県庁前、10/15～10/16　　←　イヤガラセあり。
45	20231023	～26日　臨時議会　　・こちら側、3人の内容ある素晴らしい意見陳述。自公からの反論(発言)なし。
46		○「国策に対する民主主義のたたかい」…向原　　・多くの傍聴者　　←　傍聴よびかけの　ハガキ
47	県	○事務局体制　・・・　　スタッフ会議、　幹事会(木曜、6時～8時、会場係りを置く)、基本的に手弁当
48		・すぐれた集団 …デザイン(かめさんマーク、ポスター等)、音楽、高い事務能力、判断力、
49		・常に新聞、テレビが報道してくれた…　条例制定に向けた記者会見等　・・・　メディアとの連携。
50		・メディアへの連絡体制、意識したレイアウト　背景、仲間への連絡　→　ネット　。カンパ約 290万円
51	指宿	♡　さよなら原発：アクションいぶすき…12年間、毎月、　通信発行、学習会、街頭行動　80人に配布。
52		資料　①850円の反省会から始まった。　　資料②　150号通信　カンパ(会費　年　1000円)
53		※　「指宿九条の会」も、ほぼ同様なことをしているし、メンバーも　ほぼ　ダブッテいる。
54		○各種行動・・・講演会(後藤政志、樋口英彰、木原栖林その他)、裁判傍聴行動。　一方で反基地闘争も
55		※　ボブディラン　の「♪風に吹かれて」　BLOWIN‘ IN　THE WIND　の前に　The　Answer is が省略。

資　料　2

「　指宿の反原発運動が続いているわけ　」　　グループ代表　橋野裕明

指宿の地に、「さよなら原発：アクションいぶすき」という実質２０人ぐらいのグループがあります。２０１２年の夏の向原知事選の後からずっと続いています。そのリーダーが堀口博美さん。以来、三つの行動を毎月やってきました。その一つ目は、毎月、「さよなら原発：アクションいぶすき」のニュースを作り、仲間に届ける事。Ａ４のきっちりとした中身のニュースを作るのが堀口さん。広いネットワークを駆使して、記事にし、学習会、行動の予定も記入して周知。それを８０人の仲間に、手分けして配布、メール、郵送で届けるのです。今年の３月１日で１２２号が出ました。二つ目は、第２金曜日の学習会。これも堀口さんが、深夜の原発関係の番組などの録画をプロジェクターを使っての学習です。映画、講演会も企画しました。三つ目は第４火曜日の街頭行動です。指宿で一番の交通量のある田口田交差点でのアピールです。アピールに使うのは、向原選挙の時の政策ポスター、「さよなら原発」を発砲スチロール板に張ったもの。軽い気持ちで参加できます。もちろん、自家製のアピール様式も。大きな声は出さない。9年近くやっていると、通り過ぎる人たちの視線が、やさしくなったように思える。

指宿でこんなことが続いているのにはワケがあるように思う。それは、チェルノブイリの原発事故の次の年、1987年に発足した「自然にやさしい仲間たち」という指宿の女性たち、１０人強のグループの存在です。今から30年前、池田湖の東にゴルフ場を作ろうとする企業の進出を、「指宿の水がめ池田湖を守ろう」を合言葉に、彼女たちが中心になって、「ゴルフ場を考える会」を結成しました。山林所有者に働きかけ、地域公民館での説明会に大学の先生をお呼びし、また別の日は、彼女らが講師を受け持ちました。チラシを入れ、市議会に働きかけたり、当時の社会党、共産党、地区労との連携のもと、県内外に働きかけ一口、1500円、９４５人から２１１万円を集め、それで山林所有者から「立ち木」を買い取り、幅１０ｃｍ、長さ５０ｃｍの板に協賛者の名前を記して杉の木にヒモで括りつける。いわゆる「立ち木トラスト」運動に勝利したのです。彼女らはその後も折にふれ、集まり、語りあってきました。そして、東日本大震災が起こり、2012年の向原さんを推しての知事選がありました。選挙のポスター貼りも率先してやりました。知事選の反省会では、「これからも反原発の運動を続けよう」と発足したのが「さよなら原発アクション・いぶすき」です。今も彼女たちが核になって続いています。いつだったかの講演会で、「一度、何かの斗いで勝利した経験のある人たちがいると強く、長続きするものです」と講師が話された時、私は相づちを打ちました。

直近の、２月の学習会のテーマは、「福島を忘れない」でした。私は資料として、１９７０年頃、大分県佐伯市の漁村、風成（かざなし）の女たちの斗いを描いた、松下竜一のルポ小説、「風成の女たち」のコピーを用意しました。漁村の女たちが、進出してくるセメント会社と行政を相手に、知恵を出し合い、勝利した斗いを描いたものでした。それと対置する形で指宿の運動を振り返ってみたかったからです。

※　上は、橋野がミニコミ紙から原稿依頼されて、「さよなら原発：アクションいぶすき」について記したものです。堀口さんは、私がこの原稿を送付して、1週間後に肺がんでなくなりました。しかし、彼が続けてきた3つの行動は、今も、途絶えることなく続いています。　　２０２４，１

資料　**平井憲夫**　さんの著書、「　**原発がどんなものか知ってほしい**　」**から。**全部で２１ある項目のうち、２０番目の項目から。

「 私、子ども生んでも大丈夫ですか。たとえ電気がなくなってもいいから、私は、原発はいやだ。」

最後に、私自身が大変ショックを受けた話ですが、北海道の泊原発の隣の共和町で、教職員組合主催の講演をしていた時のお話をします。どこへ行っても、必ずこのお話はしています。あとの話は全部忘れてくださっても結構ですが、この話だけはぜひ覚えておいてください。

その講演会は夜の集まりでしたが、父母と教職員が半々くらいで、およそ三百人くらいの人が来ていました。その中には中学生や高校生もいました。原発は今の大人の問題ではない、私たち子どもの問題だからと聞きに来ていたのです。

話が一通り終わったので、私が質問はありませんかというと、中学二年の女の子が泣きながら手を挙げて、こういうことを言いました。

「今夜この会場に集まっている大人たちは、大ウソつきのええかっこしばっかりだ。私はその顔を見に来たんだ。どんな顔をして来ているのかと。今の大人たち、特にここにいる大人たちは農薬問題、ゴルフ場問題、原発問題、何かと言えば子どもたちのためにと言って、運動するふりばかりしている。私は泊原発のすぐ近くの共和町に住んで、二四時間被曝している。原子力発電所の周辺、イギリスのセラフィールドで白血病の子どもが生まれる確率が高いというのは、本を読んで知っている。私も女の子です。年頃になったら結婚もするでしょう。私、子ども生んでも大丈夫なんですか？」と、泣きながら三百人の大人たちに聞いているのです。でも、誰も答えてあげられない。　「原発がそんなに大変なものなら、今頃でなくて、なぜ最初に造るときに一生懸命反対してくれなかったのか。まして、ここに来ている大人たちは、二号機も造らせたじゃないのか。たとえ電気がなくなってもいいから、私は原発はいやだ」と。ちょうど、泊原発の二号機が試運転に入った時だったんです。

「何で、今になってこういう集会しているのか分からない。私が大人で子どもがいたら、命懸けで体を張ってでも原発を止めている」と言う。

「二基目が出来て、今までの倍私は放射能を浴びている。でも私は北海道から逃げない」って、泣きながら訴えました。

私が「そういう悩みをお母さんや先生に話したことがあるの」と聞きましたら、「この会場には先生やお母さんも来ている、でも、話したことはない」と言います。「女の子同志ではいつもその話をしている。結婚もできない、子どもも産めない」って。

担任の先生たちも、今の生徒たちがそういう悩みを抱えていることを少しも知らなかったそうです。

これは決して、原子力防災の八キロとか十キロの問題ではない、五十キロ、一〇〇キロ圏でそういうことがいっぱい起きているのです。そういう悩みを今の中学生、高校生が持っていることを絶えず知っていてほしいのです。

筆者「平井憲夫さん」について：

１級プラント配管技能士、原発事故調査国民会議顧問、原発被曝労働者救済センター代表、北陸電力能登（現・志賀）原発差し止め裁判原告特別補佐人、東北電力女川原発差し止め裁判原告特別補佐人、福島第２原発３号機運転差し止め訴訟原告証人。１９９７年１月逝去。享年５８歳。

「原発被曝労働者救済センター」は後継者がなく、閉鎖されました。

※ 私（橋野）は１９９２年、平井さんのお話を鹿児島で聴きました。その時も、「これまで話してきた事は忘れても、これだけは覚えておいてください」と言われたのが耳にこびりついています。　それが、私の反原発運動の起点になっています。

それで、お願いがあります。これは３０年以上も前のことですが、この時の現地の反響、その他の事など、分っている方がおりましたら、お手数をかけますが、教えてくださいませんか。

〒８９１－０４０２　　鹿児島県指宿市十町２２３６　　橋野裕明